13	お茶の水女子大学附属小学校	20～22

平成21年度研究開発実施報告書（要約）

1．研究開発課題

小学校における「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の内容・方法の研究開発

2．研究の概要

本校で定義する「公共性」とは，「子ども達が友だちと自分の違いを排除せずに，理解し考える力を発揮すること，そして教師達自身が民主主義に基づく社会生活を創る資質・能力を探究し育てる視点をもつこと」である。その目標に向かって授業（学習）を改善する。本校の「シティズンシップ教育」では学習における「公共性リテラシー」を探究する。「公共性リテラシー」は全学習分野において育成する。教育課程は「学習分野」と「創造活動」で編成し，当開発では「学習分野」研究に焦点を当てる。教育課程の運用には協力学年担任制と学習分野担任制を併用する。「公共性リテラシー」を育む教育課程の内容は３年次に『学習における「公共性」育成プラン』にまとめる。また，校内研究を教師の学びとして有意義で持続可能なものにするために，研究推進のあり方を改善し提案する。

3．研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

① どのような手段を考えているのか

ア 協力学年担任制

個々の教師が他の教師と協力して子どもを育てるという考え方から「協力学年担任制」を採用する。

イ 学習分野担任制

全ての教科（学習分野）で「公共性」を育むことをねらい，子どもの実態から教育内容や方法の研究を具体的に進めるために，「学習分野担任制」を採用する。「協力学年担任制」で安定の基盤をつくった上に教師の専門性を生かして子どもを育てるという考え方である。

ウ 各学習分野で「公共性」を育むリテラシーを考える

全ての学習分野において「公共性」に関する教育内容や適切な方法を抽出し，本校オリジナルの『学習における「公共性」育成プラン』を作成する。学習分野で育む「公共性リテラシー」を明らかにする。

エ 「公共性」への意識を高める校内研究体制を構築する

【授業者が学習指導案を作成する⇒みんなで授業研究を行う⇒自分自身のふり返りを行う⇒実践記録を書く⇒グループで省察する⇒自分の授業改善に活かす】という自己と他者の対話的研究サイクルを確立する。

② どのような成果を期待しているのか

ア 協力学年担任制

複数の学年担任教師が一人一人の子どもに学習指導と生活指導で関わることによって，子ども側は多面的な見方や価値観にふれることができ，よりどころを得て精神的な安定感につながる。様々な教師の人間性や指導法に触れることができ，異なる価値観や意見に出会い，葛藤をもって考える機会が増えるので「公共性」を育むことへ促進的に働く。

教師の側からすれば，「公共性」の育み方を異分野の視点で考えるチャンスが増え，すでに教師自身が経験的に把握している発達的な視点に多様性が加味されて，さらに実践を工夫することができる。

イ 学習分野担任制